

日程 平成 29 年 8 月 31 日～9 月 3 日

(北ア) 黒部五郎岳・鷲羽岳・三俣蓮華岳

撮影者 田口

8/31 東京＝富山＝折立－太郎平小屋(泊)



001 太郎坂

富山駅からタクシーで登山口の折立へ。薄曇りのもと、標高 1350m の折立から「太郎坂」という名の急坂を登る。すでに夏の花は終わり、ゴゼンタチバナも実を結んでいた。



002 薬師岳

樹林帯の急登を終えると、なだらかな登りに変わった。標高 1869.9m の三角点ベンチからは北東方面に巨大な薬師岳の威容が望めた。素晴らしい景色に力が湧いてくる。



003 蒼天

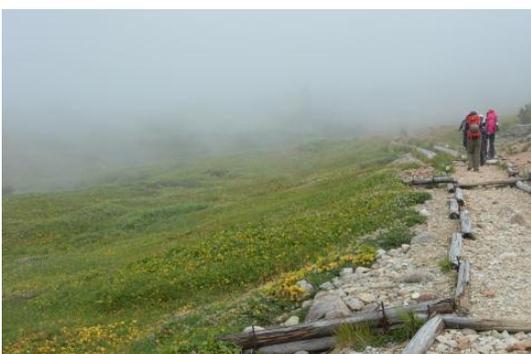
なだらかな登りが延々と続く。スタートしてから 2 時間半ほどになるが、いつの間にか、秋を思わせる雲が現れる。路傍にはアキノキリンソウやオヤマリンドウが見られる。

004 太郎兵衛平へ
谷側から次第にガスが湧いてくる。太郎兵衛平まで、北アルプスの一角とは思えないメルヘン的な風景が広がる。夏の間はさぞかし素晴らしい花畑が眺められるのだろう。



005 イワイチョウの波

周囲の山々はガスに包まれてしまったが、登山道の両側には緑の葉が黄変し始めたイワイチョウの群落がまるで絨毯のように広がる。チングルマの果穂も愛らしい。今日の目標地、標高 2330m の太郎平小屋まではもうすぐだ。





006 北ノ俣岳へ

小屋を出て暫くはガスに包まれた草原の道を歩いたが、やがて空は澄みわたった蒼穹に。最初のピーク、標高2661mの北の俣岳まで、なだらかな坂道が続く。辺りはコバイケイソウが群生し、花の群落の名残が。



007 黒部五郎岳の雄姿

優しい北ノ俣岳から岩々した赤木岳を経て、中俣乗越へ。北には薬師岳、東には鷲羽・水晶岳、南には笠ヶ岳・乗鞍・御岳山、西には雲海の上に白山が望める。秀麗な山々に囲まれ、メイン・ピーク、黒部五郎岳をめざす。



008 ついに登頂！

中俣乗越からアップダウンを繰り返し、黒部五郎岳への急坂を登り切ると、カールへの分岐に着く。ザックを置き、軽身で頂上へ。湧く雲を突き抜けて姿を見せた槍ヶ岳をバックに写真を撮る。



009 カールへの道

頂上から肩に下り、黒部五郎カールに向かう。東に延びた稜線の途中から巨大な氷河地形をなす谷へと急勾配を慎重に下る。東には均整のとれた鷲羽岳と、黒部の源流域が眺められ、西には切り立った黒部五郎岳の断崖が望める。



010 カールを下る

黒部五郎岳頂上直下の断崖には氷河を思わせる雪渓があり、そこから流れ出る美味しい水を味わう。冷たい空気と水のため、辺りにはまだ夏の花々が咲き競っていた。カールから流れる幾筋もの沢を渡り、岩のゴロゴロした歩きにくい道を下る。疲労困憊に耐えつつ、今夜の宿、黒部五郎小舎に向かった。

9/2 黒部五郎小舎－三俣蓮華岳分岐－三俣山荘－鷲羽岳－三俣山荘－三俣蓮華岳－双六岳分岐
－双六小屋（泊）



011 三俣山荘へ

晴天のもと、黒部五郎小舎から三俣蓮華岳への稜線を、時折、南の笠ヶ岳を見返し、約 300m 登る。鷲羽岳の雄姿を眺めつつ、美しい花々が咲く、三俣山荘への巻き道を行く。ザレ場もあり、慎重な足運びが必要だ。

012 鷲羽岳への急登

三俣山荘にザックや荷物を一部置き、鷲羽岳に挑む。道の右側はスパッと切れた断崖、落石を引き起こさないように留意しつつ登る。雲ノ平、薬師岳がくっきりと望める。



013 鷲羽岳ハント！

急登を登り切り、標高 2924m の頂上に到着！ 天候に恵まれ、充実した気分で、しばらく達成感に浸る。山頂はガスのため水晶岳の威容が眺められず、鷲羽池が見当たらなかったのが心残りだ。

014 三俣蓮華岳へ

標高 2550m の三俣山荘に戻り、今度は 2841m の三俣蓮華岳をめざす。ふくよかな山容に見えるが、北側には見事な断崖とカールが広がる。双六小屋への巻き道分岐から、イワキキョウの咲く頂上直下の急勾配を登る。



015 三県にまたがる交差点

富山、岐阜、長野三県の県境でもある三俣蓮華岳。平坦なピークを通り抜け、道は南側の丸山へと向かう。東側にはカールが広がり、雪渓も残っている。ザレ場や東側の崖に接する箇所通過に注意する。丸山を通過し、今宵の宿、双六小屋に至る草原の巻き道ルートをとる。



016 ご来光

5時過ぎ、東の空の雲が赤く染まり、太陽が昇ってきた。山行4日目も好天に恵まれ、しかも今日は槍・穂高岳の姿を眺めながらの道を行くと思うと心が躍る。振り返れば、双六岳はモルゲンロートに染まっていた。

017 槍を背に

早朝、双六小屋を発った時には周囲の草原には霜が降りていたが、太陽が昇るにつれ気温が上昇してきた。木道や低灌木帯をゆっくり登る。標高2622mのくろゆりベンチで槍を背景に撮影。強烈な逆光のため、フレアが出てしまった。



018 青空の下、連なる峰々

左手に西鎌尾根・槍・涸沢・北穂・奥穂・西穂などの峻々たる山容を眺めながら、弓折分岐をめざして歩く。日曜で天候も良いため、下からどんどん登山客がやってくる。

019 穂高の威容

弓折分岐から鏡平に下る途中、登山道が左に緩やかにカーブし、穂高連峰がひときわ美しく見える場所に出会う。雲海の上にごく薄いヴェールのような蒸気の層が現れる。鏡平まであと一息だ。



020 別天地

鏡平でかき氷を楽しんだあと、小屋から数分のところにある鏡池。お決まりの撮影スポットだが、やはり絵になる特別な空間に思える。風もなく、まさに鏡のような風景を味わうことができた。ここで秀麗な風景とはお別れ、多くの登山客と挨拶を交わしながら、小池新道を延々と下りに下り、新穂高に向かった。